北西側土塁

南西側土塁

曲輪２　土塁

曲輪２の三方向を囲む土塁は場所によって構築方法が異なることが分かりました。

北西側の土塁内では、改修前の土塁は頂上から内部側へ１つ段を設け、石を据えていました。改修時にさらに土を盛って土塁を高くしています。この土は、平坦部や堀切内を削った土を盛ったと思われます。

南西側の土塁は、斜面部に土を持って造成して曲輪を広げ、その上に土塁を築いていました。北西側土塁と同様、さらに土を盛って土塁を高くしています。しかし、北西側の土塁にみられるような石は土塁内からは現在みつかっていません。

出土遺物

遺物は、土師器や陶器、白磁(※せいか)や青花といった磁器、銭貨、短刀、鉄製品などが出土しています。陶器は、すり鉢片が多く出土していますが、そのほとんどは丹波焼です。また、瀬戸美濃系天目茶碗も出土しています。曲輪２の北西斜面からは短刀がみつかっており、鎧通し(※よろい)と思われます。

まとめ

８月以降の調査では、雨落ち溝をともなう礎石建物、虎口のつくり、土塁の構築方法など城の様々な様子が明らかになりました。このことから、元の城館から改修を経て、廃城に至るまでの流れを読みとることが可能になりました。元々この地域の地侍である松原氏の居城であったものが、織田信長の三田城攻めの際の付城として改修された際、防御性を高めるように大規模に改変された可能性もあります。

用語解説

【土塁】曲輪の外周部に土盛りして造った、防御するための施設
【曲輪】山を削ったり盛土して造った平坦面
【堀切】深い溝状に掘った防御するための施設
【箱堀】断面形が逆台形のかたちをした堀
【横堀】曲輪のまわりに設けられた堀
【虎口】城の出入り口
【青花】白い地に青い絵付けをした中国産の磁器
【鎧通し】鎧の隙間から刺すための短刀

2019.12.14
神戸市教育委員会

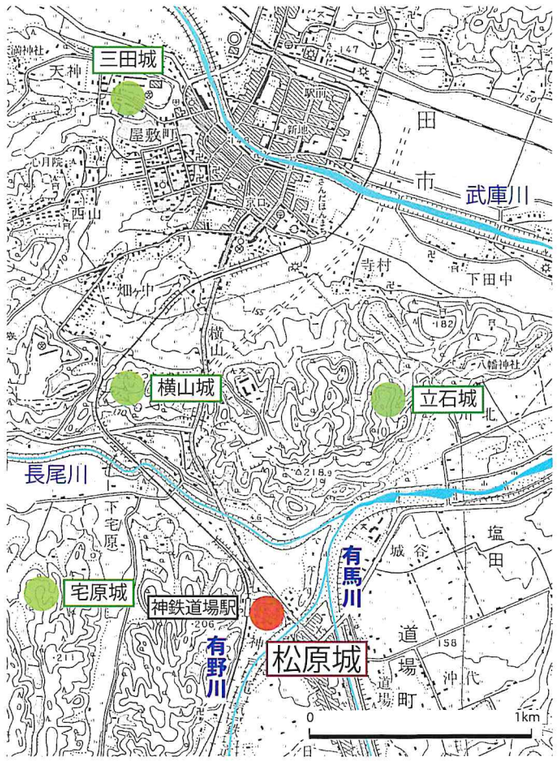
松原城跡　第2回現地説明会資料

松原城近景（南から）

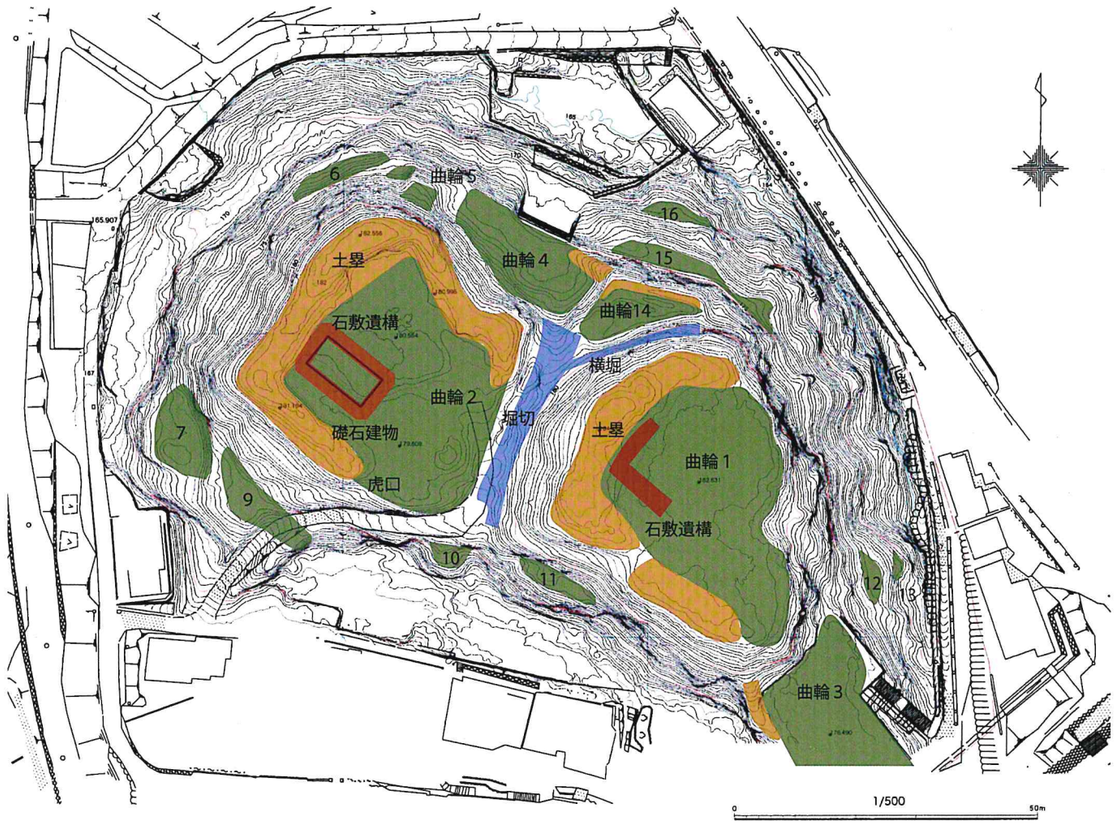
松原城は、「蒲公英城(たんぽぽ)」「道場川原城」とも呼ばれ、神戸市北区道場町日下部(くさかべ)に所在しています。城跡は有野川と有馬川が合流する地点の西側にある比高差25mの独立丘陵上に立地します。すぐ東側には大阪から日本海側に抜ける主要街道である丹波街道が通り、北側には播磨方面へ向かう街道の分岐点があるなど、交通の要衝でした。

この度、宅地開発工事に伴い、本年３月から丘陵全体を対象として、発掘調査を実施しています。

今年の８月に行った現地説明会では、高い土塁(※どるい)に囲まれた曲輪(※くるわ)２や堀切(※ほりきり)端に設けられた閉塞土塁、武者溜まりとされる曲輪４など、高い防御性をもった様子を見学していただきました。今回は前回の時点では未調査であった曲輪１や堀切の南半などに加え、曲輪２下層や土塁の築造過程などから判明した城の改変の状況などについて説明いたします。



松原城跡位置図



松原城遺構配置図

曲輪１　北西土塁

曲輪１　石敷遺構

曲輪１

丘陵の東半部の、この丘陵で最高所に造られた曲輪です。

北西側から南西側の二方向に土塁があります。北西側の土塁上にかつて神社が建っており、近世以降の改変が一部みられます。北西土塁は、平坦部から土塁の頂上まで 1.5 mあり、その上に社殿を建てるために新たに 20 ～ 30cm ほど土が盛られたようです。土塁内側の石組みは、おそらく土留めの役割として築かれたと思われます。

この土塁東の平坦部からは L 字状に拳大の礫が敷き詰められた石敷遺構が確認され、北西側の一辺は土塁に沿って造られています。この遺構の性格は不明ですが、建物の軒下に造られた雨落ち溝の可能性も考えられます。しかし、付随する建物跡は確認できず、この曲輪内では建物跡はみつかっていません。

曲輪の南側と東側に登城道と思われる道がありますが、東側の虎口は確認できませんでした。

堀切土層断面

堀切

曲輪１と曲輪２の間につくられた箱堀(※)はこぼりです。北端には敵の侵入を防ぐために両側面に石を積んだ土塁（閉塞土塁）を築き、堀を閉じていました。

８月以降の調査では、曲輪 14 にこの堀切からつながり、曲輪１の裾をめぐる横堀(※)よこぼりが検出されました。堀切との分岐点では段が設けられています。

曲輪２　虎口

曲輪２　虎口(※)こぐち

曲輪２へ出入りする部分です。南西側斜面下から階段状に虎口へ続く石段がみつかりました。しかし後世の削平をうけており、当初の姿がどのようなものであったかは不明です。

曲輪２　礎石建物

曲輪２　礎石建物

曲輪２の南西部に位置する３間 ×６間の礎石建物です。礎石は、一部抜き取られていますが、抜き取り穴として痕跡が残っています。他にも礎石と考えられる石がみつかっており、おそらく建て替えがあったと思われます。建物の周囲は石敷きの雨落ち溝が設けられていたようです。

曲輪２　石敷遺構

曲輪２　石敷遺構

曲輪２の北西側土塁裾に沿って敷き詰められた石は、礎石建物にともなう雨落ち溝の可能性があります。今回見つかった石敷きは、前回の説明会の時点で確認していた石敷きの下層から発見したものです。一部、さらに下層にも石敷きがあります。